



カツオはどうして1本づりなの

伝統的な1本づり

カツオは、昔から1本づりといわれる、さおづりです。さおづりとは、さおを水面上に立て、あみを水面に下ろして、魚を釣る方法です。さおづりのほうが、短時間で大量に、体に傷をつけずにカツオをとれるのです。とうぜん、さおづりのほうがカツオの味もよく、値段もよくなります。

1本づりとは、カタクチイワシやマイワシなどの生きたえさを水面にまき、同時にくみあげた海水をまいて、いかにもえさの小魚の大群がいるように見せかけて、カツオをおびき寄せます。そして、夢中になって、えさに飛びついてくるカツオめがけて、えさのついていない針をつけたさおを入れます。カツオが飛びついたら、すぐさおをあげ、船の上でカツオがすぐ針からはずれるように、つり針には「返し」とよばれる部分がありません。

日本でこのつり方が発達したのは、生きたえさが、簡単に手に入ったからです。

カツオの生態

カツオは、水温がほぼ20℃以上の、熱帯から温帯にすみます。日本には、季節的に回遊してきます。3、4月には南の海から、日本の南よりの近海にのぼってきます。5、6月にかけて黒潮に乗ってさらに北の海に進んで、初カツオの季節となります。7、8月には黒潮をこえて、三陸沖の近海にまであがってきます。

秋になると、南の海にもどっていきます。この時期のカツオを、「もどりカツオ」といいます。11月ごろには、カツオは日本近海からほとんど姿を消します。（監修・杉浦 宏）

